

JR 小林駅自由通路および駅舎橋上化工事始まる

「橋上化」で利便性向上へ

明治 34 年に開設され、印西市の玄関口の一つとして親しまれてきた JR 成田線小林駅。現在、同駅舎および自由通路の新設工事を実施しています。

◆小林駅舎再生への動き

JR 小林駅は、現在まで小規模な改修を繰り返して、2 面 2 線式のホームとして利用されています。改札口のある駅舎は木造で、南側の上り線ホームに設置されています。そのため、以前から利用者間で、北口の利便性向上を求める声が上がっていました。また、上下線ホームをつなぐ跨線橋と南口と北口を結ぶ自由通路も老朽化が進み、バリアフリーの観点から早期改善

が望まれていました。こうした声を受けて、平成 14 年に木下駅・小林駅舎改築について、市では JR と協議を開始。まず、木下駅の整備が行われ、平成 20 年度に完成をみました。小林駅は、平成 19 年度に小林区活性化計画が策定され、平成 20 年度に小林駅の整備に向け、JR と協議を進めることとなりました。

その後、平成 21 年度からは、小林地区まちづくり懇話会を通じ、市民のみなさんから意見をいただきながら JR と設計を進めてきました。そして、今年 3 月に JR と工事施行協定を締結。8 月から本格的な工事が始まり

ました。新駅舎の利用の開始は平成 26 年秋ごろの予定です。なお、この事業は、国土交通省所管の「社会資本整備総合交付金（小林・牧の原地区都市再生整備計画事業）」で実施しています。

◆地域の人たちの希望を受けて

去る 8 月 23 日、JR 小林駅の隣接地で「小林駅橋上駅舎新設他工事安全祈願祭」が建設会社主催で執り行われました。当日はたくさんのお客さまが出席し、新駅舎などの工事開始を祝い、今後の無事を祈願しました。

同日、市整備課整備班（☎内線 744・745）。



▶祈願祭で鉄入れを行う板倉市長（左）と JR 東日本千葉支社長の石川氏



◆新しくなった小林駅（北口）のイメージ図。橋上化・エレベーターなどの設置でバリアフリーが実現されます

◆新駅舎および自由通路概要

【新駅舎】

- ・面積…約 424㎡
- ・設備…エレベーター（上下線各 1 箇所）
- ・ホーム上家…上下線各約 100 m

【自由通路】

- ・面積…約 604㎡
- ・幅員…約 4.5 m
- ・設備…トイレ、多目的トイレ、エレベーター・エスカレーター（北側各 1 力所）
- 概算総額…約 18 億 3 千万円

（株）大林組が市へ土地を寄付



目録を手渡す（株）大林組の磯田卓開発事業本部長（左）と板倉市長

（株）大林組（東京都）から、会社が所有する山林（印西市別所地先 9,407㎡）について市に寄付の申し出があり、市は去る 8 月 23 日にこの寄付を受け入れました。

同日、大林組の磯田卓開発事業本部長から板倉市長に寄付目録が手渡されました。磯田氏は「寄附する土地には手つかずの自然が残っており、ホルタルの生息する湧水を生み出す山林であることや、印西市の各種計画を補完する土地であることなどから、印西市民の福祉向上のためにも役に立ってほしい」と語りました。

板倉市長は「貴重な土地をいただきありがとうございます。市民のために役立ちたい」と語りました。また、「お礼を述べました」とお礼を述べました。

● 10月3日(木)は広域交付住民票の発行ができません

10月3日(木)に住民基本台帳ネットワークシステムの改修に伴い、システムを停止します。このため、この日は、他市町村で広域交付住民票の交付を受けることができません。

また、他市町村の人が、印西市で広域交付住民票の交付を受けるこ

ともできません。みなさんにはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

☎市民課住民記録班（☎内線 234・237）、印旛支所市民福祉課（☎981116）、本埜支所市民福祉課（☎971111）。

住宅・土地統計調査にご協力を

10月1日から防災行政無線の放送時間を変更
【変更前】午後5時 ↓ 【変更後】午後4時30分
※正午は変更ありません。
☎防災課防災班（☎内線 454）。

総務省統計局では、10月1日現在で住宅・土地統計調査を実施します。この調査は、住生活に関する最も基本的な調査で、全国約350万世帯のみならず、調査票の記入内容は、統計を作成・分析する目的以外に使用することはありません。

今回の調査では、近年多様化している国民の居住形態や少子・高齢化などの社会・経済状況の変化を踏まえ、住宅のストックのみならず、①住生活を支える居住環境、②耐震性・防火性といった住宅性能水準の達成度や省エネルギー性能住宅、③土地の有効利用状況を明らかにすることをねらいとしています。

統計調査員が調査世帯へ調査票の記入をお願いに伺った



新ごみの分別大事典シリーズ⑥

粗大ゴミを減らそう！「リサイクル情報広場」

昨年度、収集された市内の家庭系「粗大ごみ」の排出量は、1,145,310 kg。これは、1世帯あたり年間約 34 kg の粗大ごみを排出している計算になります。本市とともに印西クリーンセンターで共同処理する白井市の場合だと約 13 kg で、栄町の場合だと 16 kg であり、両構成団体に比べ、本市の粗大ごみ排出量は 2 倍以上多い状況です。

なお、両構成団体では現在、粗大ごみ処理が有料化されているため、排出量抑制の大きな要因になっていると考えられます。

粗大ごみとして、排出される物の中には、まだ使用できる物が多く見受けられます。粗大ごみなどを減らすポイントは、長く使えるものを選んで買い、修理やメンテナンスをしながら大切に使い、必要なくなった時には、必要としている人へ譲ったり、リサイクルショップなどを利用したりするといった方法があります。

市では『広報いんざい』毎月 15 日号（本紙 4 ページ参照）や市ホームページ上で「リサイクル情報広場」と題し、市民のみなさんからの「ゆずります」「探しています」といった情報を提供しています。ぜひこちらも活用してください。

☎クリーン推進課クリーン推進班（☎内線 382）。